

総務常任委員会記録

令和4年1月13日(木)午前9時59分～午前10時25分(9階909会議室)

○出席委員(9名)

委員長	梅津 一匡
副委員長	根本 雅昭
委員	石原洋三郎
委員	高木 克尚
委員	小松 良行
委員	村山 国子
委員	小野 京子
委員	黒沢 仁
委員	宍戸 一照

○欠席委員(なし)

○案件

- 1 所管事務調査について
- 2 その他

午前9時59分 開 議

(梅津一匡委員長) おはようございます。総務常任委員会を開会いたします。

所管事務調査についてを議題といたします。

本日は、まず皆様から調査テーマとすべき事項の案を出していただき、その後自由討議の形で協議したいと思います。

なお、標準的な調査を行った場合の想定スケジュールも作成いたしましたので、ご覧ください。まだテーマも決まらない段階でございますので、あくまでも標準的なスケジュール感になりますが、今日を含め2回から3回程度でテーマを決定し、その後当局説明などを行い、調査を進めれば、来年の3月には委員長報告を行えると想定しております。なお、新型コロナの関係もありますので、あくまでも現時点で考えられるスケジュールとなっております。

以上のスケジュール感も踏まえまして、委員の皆様から調査テーマの案をお伺いしたいと思います。お持ちの方いらっしゃいますか。

(宍戸一照委員) 考え方として2つ。1つは身近なところで、複合災害が今後も想定されるという中

において、市役所の業務というものを考えると、業務維持、遂行計画というものはしっかりと我々も見えていかななくてはならない。やっぱり避難所開設にしても、片一方で水害が起きた場合も、そのときにどうするのかとか、いろいろそういうような、本会議の一般質問でも出ているとおり、業務維持、業務遂行計画とか、なかなか当局も考えあぐねているようですから、そこで我々としても少し勉強してみてもいいのかなというのが1つ。

あともう一つは、スーパースマートシティだね、それはやっぱり福島市としても調査研究してみるのも面白いかなと。

【「所管大丈夫なの」と呼ぶ者あり】

(宍戸一照委員) 所管は情報政策課というようなことで。

(梅津一匡委員長) ほかに案をお持ちの方いらっしゃいますか。

正副としての案も一応想定して用意はしていたのですけれども。

【「聞かせてください」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) 今ほど宍戸委員からも災害に対する業務維持、遂行、避難所等の運営というようなお話もありました。そういうところでうちの所管をフルに発揮するということを考えまして、テーマとしては危機管理という部分をやっていければなというふうに正副の中では考えていたところがございます。

宍戸委員からもありました近年の複合災害等々、そういう災害に対する課題、まず、災害が発生した場合、おそれがある場合というのを含めまして、その情報をどうしていくかというところ、これをどのように発信するのかというまず当局側の観点もあります。また、ここで宍戸委員が先ほど発言あったように、避難所の関係であったり、そういうことも危機管理という部分で調査できるのかなというふうに思っております。現時点はこの発信という部分に対しては、屋外スピーカーであったり、あとは戸別受信機、こういうようなことで危機管理の部分も聞けますし、あとは広聴広報という部分も兼ねていますので、そういうところも含めて聞き取りをできるのではないかなというところがまず1つあります。

情報をどういうふうに発信するかというところで、地域の担い手と考えた場合、今消防団が地域の担い手ということでいろいろ位置づけられていると思います。ただ、どこまで消防団に求めていくのかというところがちょっと最近不明確な部分があるのかなと。チェーンソーを預けられたり、チャップスを預けられたり、一体どこまでいくのかなというところも心配するところあるのですけれども、ではどこまで地域の方に求めていくのかというところ、まずそこは1つ調べていく必要があるのかなというふうに思っております。

あと、消防団員の充足率の関係がありますので、そういったところを今度は消防のほうに聞くことができるかなというふうに1つ思っております。

それで、あとは自治振興協議会とか所管しているところ、そちらもありますので、そういうところ

で地域の取組にどのように支援していくのかというところがまず2点目として挙げられるかなと思います。

今度3点目で、では市民としてどのようにそれを自分らで情報を受けていくのか、情報収集能力というのが今求められていると思うのです。そこで、情報をつかむために市の取組、今までも様々屋外スピーカーであったり進められておりますけれども、それをどのように自分たちの身近な問題として受け止めていただけるかというところ、そちらをちょっと深掘りしていかないといけないのかなというふうに考えております。

そこで、うちの所管としては様々課題が多いところではありますけれども、取り組めれば1年間かけてじっくり調査ができますので、そのやり取りの中でどんどん課題は出てくると思うのですけれども、何とかこれを我々の力でまとめ上げていければよりよい福島市政を目指せるのではないかなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

【「地域災害対策パッケージだな」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長)地域ごとにそういう災害対応というのの計画もつくられてきてはいますけれども、それを市民が分かっているのかなということも1つあると思うのです。市としてはしっかりいろいろやっているのだけれども、やっぱりそれを受け止める側としての能力も高めていこうという調査ができるのかなというふうに思ひまして。うちの所管をフルに發揮できると思ひますので。

(村山国子委員)今どうしたってホームページと言ってしまうので、高齢者の人は本当にホームページ見る能力がないので、受け取れないというのが本当課題だなと思ひます。

(梅津一匡委員長)そういうところで戸別受信機の関係だったりとかも今危機管理の中で精査、検証されていると思うのですけれども、それもこの流れでいけるか分かりませんが、段階を経て調査の過程であったりとかいろいろ聞くということもできるのかなと思ひますし、あとはどこの地区にスピーカーを配置するかとか、いろいろ今後検証を踏まえて進められていくと思うのですけれども、そういったところに対しても何が基準なのかとか、そういうところを様々聞けると思ひるので。

(小松良行委員)災害情報という点ではいいのだけれども、消防団絡めてしまうと何かまとめがばらばらになってしまうような感じだから、1本の表題があつて、これだと3つぐらいにまとめて、まとめの1つ目は、2つ目はとか。消防団絡めると変なことにならないかい。大丈夫かな。触れる分にはいいのだろうけれども、特出ししないほうがむしろまとめやすいのかな。

(梅津一匡委員長)消防団を含めて地域の自主防災組織というところ、すみません、その単語が抜けていましたので。

(宍戸一照委員)個別案件として消防団をどういうふうに活用するかということを考えれば、消防団の地域の問題として個別に消防団の活用という、地域との連携というふうに考えれば消防団を特出しするわけではないと思うので。

(梅津一匡委員長) 2つに分けられると思うのです。今3つに言いましたけれども、発信する側と受け手側というふうに整理できる、幹としては情報というのが一つの幹になると思いますけれども。

(高木克尚委員) 誠に時勢に合った課題だと思います。ぜひ調査にあたっての視点で皆さんに共有していただきたいのは、去年の3月だったかの代表質問で私が情報発信のことでお尋ねしたときに、市長から大変目からうろこの答弁がありました。というのは、行政の情報というのは伝えることではないと、伝わるのが大切だと、そういう視点で情報発信というのは本当に一方的な流れは、発信は発信なのだけれども、それでは何の役にも立たないのだと、きちっと相手に伝わるのが大切なのだという、そういう視点をぜひ皆さんと共有して調査に当たっていただければなど、そんな思いをしております。

それから、もう一点は避難所の運営なのですが、実は福島市は支所と学習センターの合築施設が非常に増えてきました。ふだんから施設の管理責任者は学習センター館長になってしまっているのです。そうすると、避難所を設置しても、その避難所の設置、運営責任者が学習センターの館長、嘱託の方が大きな任務を背負わなければならない。本当にそれでいいのかどうか。支所長のほうが行政の責任者なのですが、支所長は情報収集とか地域の対策本部の責任者ということで、避難所の管理運営になれない。本当にそれでいいのかどうか。嘱託の方に大きな施設の責任を負わせたままでいいのかどうか、そういったところもぜひこの調査、議論の中に入れていただければなど、こんな思いがするのですが、いかがでしょうか。

(宍戸一照委員) 今の高木委員の意見の中で、やはり先ほど言った危機管理における業務遂行という部分が1つ出てくると思うのね。今おっしゃった部分でのそういう委嘱をされていない方が当たるわけだから。そうすると、市役所内のそういう危機管理における業務遂行計画というものをどういうふうに、確かに各課長さんとかに行くと、何々班ということで常日頃から意識を持ちなさいということが、課長のほかに班長とかあるわけだけれども、そういうのはやっぱり我々としては業務遂行という中で、避難所をそういうふうな災害仕様にしながらも、自分の業務をいかに遂行するかということが一つの情報発信の中に入ってくると思うのね。

(高木克尚委員) 学習センター館長というのは、民間で活躍されて大きな経歴を持った方なのですが、行政経験はゼロですから、行政の仕組みが分からないところで避難所という人の命を預かるノウハウをどこまで熟知されているかという不安は残りますよね。

(黒沢 仁委員) 俺も認識不足だったけれども、結局学習センターの館長がそのところを運営する指揮命令の最高責任者という捉え方になるのかい。俺は支所の所長が指揮命令して、それを学習センター館長に伝える役割なのかなと思っていたのだけれども、そうではない。

(宍戸一照委員) 学習センターと支所は別なところがある、別築があるわけだから。

(黒沢 仁委員) 支所が避難所になっているところ。

(高木克尚委員) 支所は災害対策本部の直下の組織に入っていますけれども、避難所はまた別ですか

ら、肝腎な避難所の運営責任者は学習センター館長、民間人なのです。

(村山国子委員) 3.11のときに、蓬萊学習センターの館長がその年から民間人になったのです。本当に何もできなかったというのを目の当たりにして、ちょっとつら過ぎるのではないのかと思った。

(高木克尚委員) ふだんからその施設の管理責任者という位置づけになっているから、そのまま避難所にスライドになっているのだから。館長の責任ってめちゃくちゃ大変なのです。

(梅津一匡委員長) 避難所の避難の仕方のメニューについては結構先進的に進んできていると思うのです。ペット同伴も可能になってきたりとか、あとは駐車場の連携協定を結んだりとかという取組をやっているということは大変すばらしいことだと思うのですけれども。

(高木克尚委員) 地域の防災の観点で消防団のことも考えると、支所は消防団との連携が図れるのですけれども、学習センター館長は消防団と連携が図れないのだ。

(梅津一匡委員長) なかなかそういう矢印がちゃんと向けないというところはやっぱり1つ課題だと思いますし、あとは今結構言われているのは、民間に協力してもらっての避難所、例えば集会所であったりとかということもあると思うのですけれども、そこは誰が責任を持ってやるのだいということも、さっきの話とも似通った形になってくるのですけれども、心配だなという部分はあることはあるのです。

(宍戸一照委員) 自主防災組織のあるところは弁当ばかりではなく炊き出しとかもできるわけけれども、安易にはやっぱり弁当ではなくそういうふうな炊き出しをしながらという、それは調理室もあるから。

(梅津一匡委員長) すみません、ここで自由討議といたします。

【この間自由討議】

(梅津一匡委員長) それでは、自由討議のまとめといたしましては、まず宍戸委員から出た意見をさらに複合的にした危機管理という観点からの調査ということを現時点での一つのテーマの案として検討していきたいなというふうに思っております。その上で正副委員長手元で当局の現状等の確認を行いながら、次回再度協議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) ご異議ございませんので、そのように進めてまいります。

そのほか何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(梅津一匡委員長) それでは、以上で総務常任委員会を終了します。

午前10時25分 散 会

総務常任委員長 梅 津 一 匡